

～JICA2018年度課題別研修「地域開発計画管理」コースを受け入れました～

平成30年10月9日から11月7日にかけて、アルバニア、ブータン、モンゴル、ミャンマー、ネパール、シエラレオネ、スーダン、ラオス、タジキスタンの9カ国から10名の行政官をJICA2018年度課題別研修「地域開発計画管理」コース（受託機関：公益財団法人 はまなす財団 コースリーダー：東海大学教授 平木隆之氏）の研修員として受け入れました。

本研修は、北海道総合開発の手法を参考に参加者が自国の地域開発の計画管理・運営等の技術を習得することを目的としており、北海道開発局は、北海道総合開発の体制や当局が実施する事業、自治体等が進める地域開発事例に関する講義や、インフラ整備・産業開発事例等の現地視察を組み合わせた研修プログラムを提案し、研修員が多くの成果を得られるよう協力いたしました。

【北海道開発局表敬訪問】



水島局長との記念撮影

【講義、視察の様子】

講義は開発局職員をはじめ、地方自治体や大学等多数の関係機関の協力の下実施されました。特に、北海道総合開発計画に関しては、開発計画の更なる内容理解や自国の地域開発への適用可能性を探るべく、開発局の各分野の職員とのディスカッションを初めて実施しました。

また、講義に加え、道内各地の地域資源活用事例を学習する目的で視察が実施され、研修員が熱心に参加する様子が多く見られました。



職員と研修員によるディスカッション



JA十勝清水での講義



鹿追町バイオガスプラント



夕張市石炭博物館

【スタディレポート発表会】

本研修の終盤である11月6日には、研修で学んだ重要なテーマについて、それぞれの研修員が理解した内容をまとめ、帰国後の活動を含めて自国への適用可能性を検討する「スタディレポート」の発表会が実施されました。それぞれの鋭い分析を交えた発表内容に、本研修の成果が表れていました。

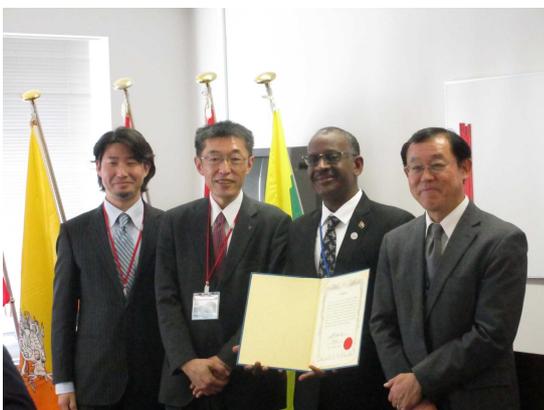


アルバニアの研修員による発表

【閉講式】

研修最終日の11月7日に閉講式が行われました。北海道開発局からは国際室長が閉講式に出席し、挨拶いたしました。各研修員にはJICA北海道から修了証書が授与され、研修員代表のスピーチでは研修関係者への感謝の意と今後の業務に本研修を活かす意気込みが語られました。

本研修の成果が研修員の母国の発展に寄与するとともに、研修期間中に築かれた日本や各参加国との友情が今後も続いていくことが期待されます。



修了証書授与



研修員スピーチ